



$Q \in [c$

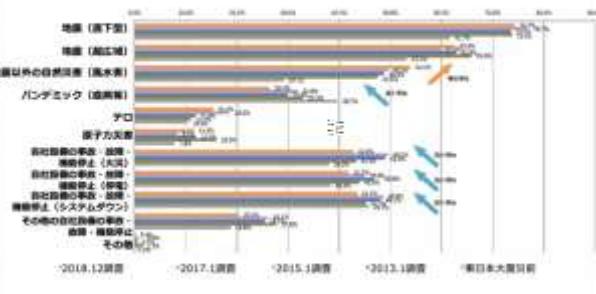
BCP/BCMをめぐる最近の議論

- ・被災範囲の広範囲化
 - ・東日本大震災
 - ・COVID-19：全国
 - ・システムの複雑化
 - ・広域的なサプライチェーン
 - ・部品1つ欠けると、全てが止まる例も
 - ・リスクの大規模化+想定外
 - ・東日本大震災
 - ・H30.7豪雨（ただし、過去に例があった（1945年）核爆発風）
 - ・COVID-19
 - ・企業等の責任の広範囲化
 - ・サービスを提供する+お客様を守る+社会的責任
 - ・リスクの長期化
 - ・リスクが長引いた場合の対応
 - ・BCPで想定する範囲の限界？？

Karla-Lee, National College of Technology

BCPが機能している（していた）のか？

- ・(BCP策定時に)想定する事業継続リスク



* 出典：NTTデータ経営研究所「東日本大震災発生後の企業の事業継続に係る意識調査（第5回）」

Karen L. Laih, Traditional Usages of Steep-leaved

リスクマトリクスとBCPの関係



- ・発生頻度が低いが、影響の大きいリスクが頻発。さらに長期化
 - ・リスクの「共有」ができているか？

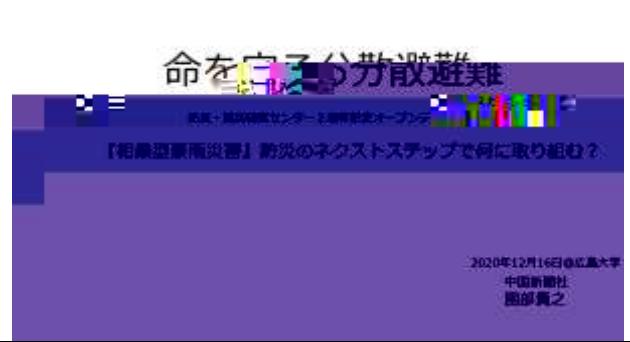
H30.7豪雨対応、COVIDと交通対応の知見から

低発生確率but被害甚大リスクが起きた場合のアプローチ
対策の選択とその考え方(理数)について

- ・低発生確率but被害甚大リスクが起きた場合のアプローチ
 - ・対策のフェーズで考えた方が想像しやすい?
 - ・安全確認・救命フェーズ(自然災害なら72h=3日)
 - ・(並行して)情報収集・環境把握フェーズ(〃 <5日)
 - ・対策立案フェーズ(〃 <7日)
 - ・初期対応実施フェーズ:応急処置+分析+知見の蓄積(〃 7日<)
 - ・システムアップデートフェーズ:PDCA(〃 14日ぐらい)
 - ・対策チームの組成(%リスク共有チーム)
 - ・リソース、課題認識のシェア
 - ・組織横断、分野横断
 - ・対策の分担実施 段階からのプラットフォームが重要!
 - ・情報発信
 - ・社会とのコミュニケーション:「正しい理解」の発信
 - ・その中の「一次情報発信」のマネジメント【需要のコントロール】

Hyperlinks: Analytical Discourse of Technology

<p>5</p> <p>● お施設の施設内に迷ったときには、必ずこちらの説明文を確認して下さい ● お亡くなりになられた方と一緒に来賓の方と一緒に「お施設内への避難口(ドア)」へお進み下さい。</p> <p>ご自身または一緒に避難する人は 避難に時間がかかりますか？</p> <p>安全な場所に住んでいて命を寄せ られる親戚や友人いますか？</p> <p>安全な場所に住んでいて命を寄せ られる親戚や友人いますか？</p> <p>普段レバントが使 たる「安全な場所 や友人などに避難し ましょう」とお読みして いる御家族や 友人に避難し ましょう</p> <p>普段レバントが使 たる「安全な場所 や友人などに避難し ましょう」とお読みして いる御家族や 友人に避難し ましょう</p> <p>普段レバントが使 たる「安全な場所 や友人などに避難し ましょう」とお読みして いる御家族や 友人に避難し ましょう</p> <p>普段レバントが使 たる「安全な場所 や友人などに避難し ましょう」とお読みして いる御家族や 友人に避難し ましょう</p> <p>お施設の避難用は 「各自が専門に定めた『避難マニュアル』」にて、 「避難を受ける人に対する避難計 画」(以下略)</p> <p>3 避難作戦のタイミングを判断するための指標を確認する</p>	<p>6</p>
<p>7</p> <p>テメ</p> <p>「避難所レイアウトの例(コロナ対策)」</p> <p>東広島市 「避難所における 新型コロナウイルス感染症 対応マニュアル」</p> <p>令和元年1月発行 令和2年6月修正</p> <p>8</p> <p>テメ</p> <p>東広島市 「避難所における 新型コロナウイルス感染症 対応マニュアル」</p> <p>令和2年6月発行</p>	<p>8</p> <p>テメ</p> <p>東広島市 「避難所における 新型コロナウイルス感染症 対応マニュアル」</p> <p>令和元年1月発行 令和2年6月修正</p> <p>8</p> <p>テメ</p> <p>東広島市 「避難所における 新型コロナウイルス感染症 対応マニュアル」</p> <p>令和2年6月発行</p>

															
 <p>実証実験 2019年11月7日</p> <p>広島市内 公募した市民41人参加</p> <table border="1"> <tr><td>20代</td><td>9人</td></tr> <tr><td>30代</td><td>6人</td></tr> <tr><td>40代</td><td>9人</td></tr> <tr><td>50代</td><td>7人</td></tr> <tr><td>60代</td><td>3人</td></tr> <tr><td>70代</td><td>2人</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>5人</td></tr> </table>	20代	9人	30代	6人	40代	9人	50代	7人	60代	3人	70代	2人	無回答	5人	<p>【まとめ】避難促進と分散避難を進めるには</p> <p>地域住民▶身の回り（地域）の情報を発信</p> <p>↓</p> <p>→ 地震や交通状況 → 近くの避難所の状況 → 河川や山林の状況 など</p> <p>← 記者・報道機関 高い効率</p> <p>→ 避難行動の促進 → リアルタイムで状況判断 分散避難を促進</p> <p>↑</p> <p>報道機関が2次利用</p> <p>↓より詳細な情報の発信</p>
20代	9人														
30代	6人														
40代	9人														
50代	7人														
60代	3人														
70代	2人														
無回答	5人														

